（第3種郵便物認可）

日刊工業新聞 Business & Technology

次世代産業で飛躍を！

元三栄電化社長がエール

石関プレシジョン、表面処理進出

成長産業で新たな飛躍を。石関プレシジョン（群馬県高崎市、石関誠二社長、027・371・5758）は、高崎市倉賀野町内の工業団地に立地する旧三栄電化のメッキ工場（写真）を取得し、表面処理工程に進出する。年末に量産化予定のプレス加工による燃料電池部品の表面処理を手がける。

工場の建屋面積は約1300平方㍍で、設備投資を含めた総取得費用は約2億円。石関プレシジョンは群馬県箕郷町の本社で表面処理の立ち上げを模索していた。だが、それには廃水処理設備の導入や届け出など諸手続きが必要なことから、新たな拠点を探していた。

1960年に創業した旧三栄電化は小型モーター用シャフト向け無電解ニッケルメッキ加工で受注を伸ばし、最盛期は従業員約20人、月商約2300万円だった。取引先が同シャフト生産の中国移管を進めた95年ごろには中国に製造拠点を設立した。ただ、労務管理の負担が大きく、数年後には拠点を売却した。

後を継ぐはずだった経営者の長男が若くして死去したこともあり、09年10月末、「資産をまだ残しているうちに廃業を決めた」（花岡安子元三栄電化社長）。花岡元社長は「燃料電池という次世代産業で飛躍してほしい」と、石関プレシジョンにエールを送った。（前橋）

企業は人なり

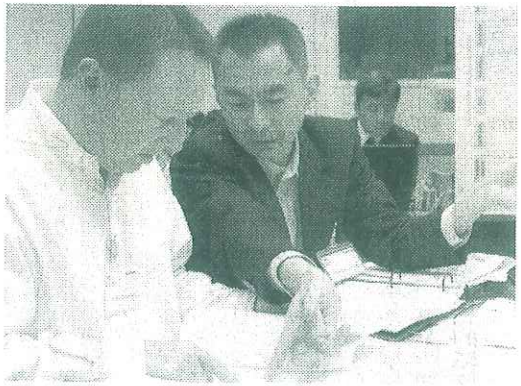
ブリヂストン

グローバルな経営人材育成

日系企業の海外進出が加速する中、将来の経営を担うグローバル人材の育成がこれまでにも増して求められている。ブリヂストンの選抜型の人材育成プログラム「グローバル・デベロップメント・クラス（GDC）」もその一つだ。グローバル経営を担う人材になるという自覚を醸成するとともに、広い視野で自ら学ぶ「場」を提供する実務重視の仕組みとなっている。

GDCは経営人材を継続的に輩出するためのプログラムで、2004年にスタート。所属や国籍、性別を越えて最適な人材をグループのカギを握るポジションに配置し、グループ・グローバル経営の基盤強化を狙う。日本やアジア、米州、欧州などの地域・グループから優秀な人材を選び、長期的なスパンで人材を育てる。5年をかけて本部長や工場長、主要事業会社の社長を、10年かけて執行役員以上を育成するのが目標だ。

最初の2年間は集合研修を実施。企業理念の浸透のほか、外部から講師を招いて仮想会社の経営を通じた研修や、荒川詔四社長との意見交換なども行う。さらに人事労政・ル人事労政は「異文化の研修や、荒川詔四社長との意見交換なども行う。さらぶことを重視している」と強調。実務によるアウトプがっている。



川社積ポ営会の供に：材に秀世

変速機

ホン

ホンダが浜松製作所で増設するのは、大同特殊鋼製の真空浸炭炉「モジュールサーモ」。真空炉を横に並べて連続処理する方式で、量産ラインに組み込める。ガス浸炭炉と比べてCO₂の排出量を約半減でき、起動時間も1時間と短い。

真空浸炭はバッチ処理が主流だったため、自動車部品メーカーはトンネル状の炉で連続処理するガス浸炭を多く採用している。しかしガス浸炭は炉内雰囲気を保つために大量のガス噴入が必要で、起動に24時間以上かかる。長期休暇以外は完全停止できず、エネルギ

0㍉のマグネシウム合金の板を曲げ・絞り加工する技術を確立した。試作用の生産設備を完成シウム合金を換えることでになり、開発幅に低減できカメラ筐体部品への採む。

ツツミ

日刊工業新聞 Business & Technology

2011年（平成23年）6 14 火曜日 14版 第21154号

発行所©日刊工業新聞社2011

本社 ☎03・5644・7000 東京都中央区日本橋小網町14－1 大阪支社 ☎06・6946・3321 大阪市中央区北浜東2－16 名古屋支社 ☎052・931・6151 名古屋市東区泉2－21－28 西部支社 ☎092・271・5711 福岡市博多区古門戸町1－1